

八街隊友会報

・発行日 R1.5.21
・発行責任者 内田 豊
・年一回発行



支部長のつぶやき

八街支部長 内田 豊



令和の時代が始まりました。

新しい時代の幕開けは、

老いの身にも

何故かわくわくするものを感じます。

平和の尊さを学んだ昭和、災害の恐怖を身近に感じた平成、それぞれの教訓を生かしつつ新しい時代をどう生きるか、今度はどんな試練が待ち受けているのか、不安でもあります。

平和にも災害にも大きく関わっているのが自衛隊です。自衛隊員の献身的な活動は被災者等に感動を与え絆も生まれ、国民から信頼を得ていることはOBとし

ても誇りに感じます。

千葉県隊友会は県行政機関の要請により災害等の非常事態が発生した時には協力する「防災協定」事業の二年目を迎えました。協定に基づき平時から支援物資の払い出しに係る訓練も計画されています。また、現職隊員が大規模災害発生時等で派遣された場合、部隊からの要請で留守家族の安否確認等を県自衛隊家族会と協力し支援することになっております。これらの支援は、公益社団法人千葉県隊友会の会員が当たることとなります。

八街隊友会の場合、県隊友会に加入しているのは約半数です。逆に八街に居住し県隊友会会員で八街隊友会に加入していない人もおります。この人たちは支部としての活動には参加しておりません。理由は色々あると思いますが、その一つが年会費の二重払いではないでしょうか。県と八街の両方の隊友会に加入する場合は、それぞれに三千円納める必要があります。

ます。これを両方へ加入している会員は年会費四千円（県隊友会へ三千円、八街隊友会へ千円）としたら両方へ加入する垣根は随分と低くなるのではないのでしょうか。もちろん八街隊友会だけへの加入を希望される方は現行通りです。

八街隊友会の歳入は減少するでしょう、当然、歳出の見直し等が必要になってくると思いますが、検討の余地がある方法ではないでしょうか。

八街隊友会が少しでも県隊友会に加入し、県隊友会会員で八街隊友会に加入していない人が少しでも八街隊友会に加入し一緒に活動できるようになればと思います。

災害は平成の時代で終わったわけではありません。八街隊友会も県の行政機関や部隊に協力する県隊友会の活動に呼応できるように人的勢力を拡充しておく必要があると思います。



退職後の過ごし方

事務局長 小山 秀之



平成二十二年一月に高射学校を定年退官し、翌年の三月に東日本大震災が起きました。予備自衛官の私にも招集がかかり、宮城県船岡に派遣されました。約十

日間でしたが、救援活動を行いました。たとえば、予備自という形でも、この仕事に携われたことに今でも感謝しております。平成二十五年には、観閲式にも参加し、いい経験をしました。平成二十八年に予備自も退職し、自営の農業一筋となりました。春から夏にかけて、西瓜、メロン等の直売をし、全国にも宅配をしております。秋は畑もトマトに替わり、二ヶ月間ほどんど休みなくJAに出荷しております。平成二十八年の八月に大きな台風が来て、ハウスが全て全壊したときは、大変ショックでした。補助金を受け、新しいハウ

スが建ち、また新たな気持ちで頑張っています。春先に畑で作業していると、ウグイスやキジが鳴き、周りには山桜が咲きほころぶ頃、忙しい中でも一番気持ちのいい季節です。農業は定年のない職業です。ので、女房と体が続くまで、ゆっくりと進んで行こうと思っています。



令和元年度定例総会のご案内

本年度の定例総会を「割烹やまもと」で開催します。年に一度の大イベントです。隊友同士が大いに語り合い、大いに杯を交し合い、旧交を温めようではありませんか！
皆様のご出席を心よりお待ちしております。

役員一同

・日時 五月二十五日（土）
総会 十七時～
懇親会 十八時～二十時



産業祭りに出店しました

昨年の十一月二十五日、恒例の八街市産業祭りが開催され、隊友会も例年通り、自衛隊グッズの販売を行いました。

当日は天候に恵まれ、多くの市民が集まり、晩秋の祭りを和気藹々と楽しんでおりました。今年の自衛隊グッズのメインは自衛隊カレンダーで、日の丸、陸海空の各種カレンダーを取り揃え、百花繚乱の如く見栄えする品構成によって、多くの市民が立ち寄り、購入いただきました。自衛隊カレンダーは、他のグッズと違い、年間を通して部屋に掲示する為、抜群の広報効果があります。今年の産業祭りには、八街隊友会オリジナルの自衛隊カレンダーを作成し、更なる広報活動に寄与したいと考えております。



支部行事予定

- (四月) ・千葉県隊友会通常総会・表彰式
・下志津駐屯地つつじ祭り
・千葉県護国神社春季例大祭奉仕
- (五月) ・定例総会
- (六月) ・隊友会定時総会
- (八月) ・八街市戦没者忠魂碑清掃奉仕
・八街市戦没者追悼式
- (十月) ・千葉県追悼式場整備
・千葉県護国神社秋季例大祭奉仕
・自衛隊殉職隊員千葉県追悼式
- (十一月) ・八街市産業祭り(出店)
- (十二月) ・忘年会
- (二月) ・空挺団降下訓練始め
- (三月) ・千葉県自衛隊入隊予定者激励会

縁故募集のお願い

少子化と景気の影響により、募集業務が危機的状況です。縁故募集にご協力下さい！



千葉地本成田地域事務所
0476-22-6275

心の癒しを求めて

坂東三十三観音巡礼の旅の紹介

支部理事 遠藤 誠

【平成十八年海上自衛隊退官後、荏原製作所関連会社に十一年間勤務後に退職、現在フリーで活動中】



巡礼は観音信仰が盛んになった平安時代の中頃から、修験道や僧たちの修行としてはじまりました。

したが、やがて布教のひとつとして巡礼がすすめられるようになり、江戸時代になると庶民に普及し広まります。西国三十三箇所、坂東三十三箇所、秩父三十四箇所と併せて日本百観音言います。ここでは、坂東三十三箇所について紹介します。坂東三十三箇所は、西国の霊場を模範として鎌倉幕府の初代征夷大將軍である源頼朝(一一四七年～一九九年)によって発願され、三代征夷大將軍の源実朝(一一九二年～一二一九年)により札所が制定されたと伝えられています。

第一番札所の杉本寺から第三十三番札所である那古寺まで巡拝(神奈川県九箇寺、埼玉県四箇寺、東京都一箇寺、群馬県二箇寺、栃木県四箇寺、茨城県六箇寺、

千葉県七箇寺)すると、その道程は千三百キロメートルにもなり、現在では車で巡礼する人も多い。

巡礼者は、全ての札所を巡拝(結願)すると、善光寺及び北 向観音に「お参り」をすることが習わしとされている。またお札参りの始まりは江戸時代とされている。

今、「心のよりどころ」を求める人々が、巡礼にその場を求めているといわれています。はじめは物見遊山の行楽気分での巡礼に出た人も、いつしか心が洗われている自分を見出すことができるのではないのでしょうか。

皆さんも始めてみませんか。



第一番札所「杉本寺」

防衛意識の普及に関する一考察

1. はじめに

昨年及び一昨年は、防災意識の普及について掲載させていただきましたが、今年は防衛意識の普及について述べさせていただきます。

ここ数十年、中国・北朝鮮の軍事的脅威が表面化し始め、直近数年では、中国による覇権の脅威が顕著になってきました。会員の皆様は、このような緊迫した情勢を承知しておられると思いますが、隊友会全体としてみた場合、各会員が一般市民に自信をもって説明できる状態には至っていないのではないかと考えております。何故ならば、マスメディア、SNS等が発信するフェイクニュースを含む多くの情報が巷に氾濫し、情報の信憑性に大きな疑念を抱かざるを得ないからに他なりません。一般市民に対し正確な情報を提供し、防衛意識を高揚させることは、自衛隊OBたる隊友会会員に課せられた重要な責務であると考えます。



支部理事 内田政三

そこで、先ず会員が正確な安全保障戦略の情報を入手すると共に、情勢の変化に即応する為、定期的に勉強会を開いて情報の共有化を図ることが必要不可欠でありましょう。そして、勉強会を通して習得した知識・情報を隊友会の事業展開時等、一般市民と交流する機会において、積極的に伝えることが出来れば、効果的且つ有意義な防衛意識の普及が可能となると考えております。

2. 防衛意識普及の必要性

「百年兵を養うは、これ一日がためなり」「治にいて乱を忘れず、乱にいて治を忘れず」等の格言がありますが、混沌とした国際情勢下に生きる私たちにとって、この格言こそが大きな道標になると思えてなりません。現在は、新冷戦といわれるように、大乱の前のグレーゾーンの時代といえるでしょう。日本国民は戦後七十年、現憲法の下、アメリカの力と自衛隊の努力で平和を享受してきました。しかし、今はアメリカの力が衰えを見せる中、アメリカの覇権を中国が脅かそうとしています。中国は、今までの国際秩序を崩し、自分たちの価値観（中華思想）で世界をコントロールしようと企てています。この流れを止めようとアメリカのトランプ大統領が立ち上がりましたが、思うようにこれを制止できません。中国の国力が強くなりすぎたからです。中国は、酸による侵食の如く、巧みな裏工作により、力の弱い国及び地域に工作員を送り、賄賂、技術の窃盗、サラ金まがいの資金援助等により、重要地域の取得と自分たちに都合の良い御用勢力の構築になりふり構わず邁進しています。

翻って、この視点から、日本の政治・マスコミ報道を見たとき、極めて憂慮する事態となっています。政治においては、今の与党が必ずしも良いとはいえませんが、外交、安全保障、憲法改正に対する姿勢は、及第点をつけることができるでしょう。ただし、野党に関しては中国の顔色ばかり伺って、国防に係る重要施



策の論議に極めて消極的です。この実態を見るに、野党にも中国工作員の魔の触手が侵入し、中国の御用政党に化したのではないかと大きな疑念を抱きます。また、マスメディアも同様で、中国（北朝鮮・韓国を含む）を刺激しないよう、中国に都合の悪い情報及び論評を報道しない傾向にあります。これも中国の巧みな工作員の仕業であると推察します。このままでは、日本国民の防衛意識は確実に低下します。

そこで、我々隊友会員の活動範囲は限られているとはいえ、質の高い情報及び認識を持って臨めば、市民の意識高揚にかなりの貢献ができるのではと考えております。



3. 防衛意識普及の向上施策

(1) 情報・知識の共有

市民への普及の機会として、隊友会事業で考えられるのは、総会及び忘年会、産業祭並びに戦没者慰霊祭等です。それぞれの機会にどのような話題を市民に伝えていくべきかを共有して臨むことが大切だろうと考えております。

(2) 国民としての防衛意識

世界、特にインド太平洋地域の軍事情勢とそれぞれの社会・経済情勢をベースとして、それが日本の安全保障にとってどのような影響があるか、それに対する日本の対応はどうあるべきか、現状はどうなっているかの真実を伝え、国民としてできることは何かを整理しておく必要があります。

(3) 会員の普及向上施策

毎月一回、主だった雑誌を教材として、テーマを絞った読書感想会・討論会等で知識を共有していくことが肝要です。主な教材として月刊誌「正論」「Will」等を使用して、コーヒーを飲みながらの茶話会形式が相応しいと考えます。



4. 結論

防衛意識の普及方法は、いろいろあろうとは思いますが、悩んでも進まないの、出来るところから始め、徐々にレベルアップしましょう。今年の忘年会頃から、勉強会で培った防衛論を、市長、市議会議員の先生方にぶつけてみようではありませんか！